

議 事 ②

「平成 30 年度事業及び決算報告」

議事2 平成30年度事業報告

30年度スケジュール											
	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1. 公共交通会議の開催		●								●	
2. 市民アンケートの実施		←→									
3. 各地での懇談会の実施			←→								
4. 改正に向けた取組み	←→										
5. 利用促進事業の実施	←→										

1. 公共交通会議の開催

円滑な公共交通の運行、さらなる利用促進のため、協議会を2回開催した。

(主な内容)

- ・ 5月24日：平成29年度決算、フィーダー補助申請、各事業の実施スケジュール
- ・ 1月15日：第三者評価委員会の自己評価、ふれあいバス次回改正案の協議

2. 市民アンケートの実施 8月～9月

市民3,000人を無作為に抽出し、公共交通に関するアンケート調査を実施した。

アンケートの配布・回収は8月～9月に実施し、1月15日の公共交通会議にて中間報告を実施。

(アンケート内容 (概要))

- ・ 利用者特性、公共交通ごとの利用実態
利用目的、利用方法、利用頻度等
- ・ 公共交通に対する重要度・満足度 等

■ 市民アンケート調査結果の概要

項目		今回調査結果の概要	前回調査からの変化	
1. 回答者について	①属性	<ul style="list-style-type: none"> ・男性が約34%、女性が約44%、65歳以上が約40%、勤め人が約31%、主婦・無職が約41% ・免許保有率約82%、自動車保有率約78% 	—	
	②最寄り公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・最寄りの公共交通は、JR 鶴沼駅・名鉄新鶴沼駅、JR 那加駅、ふれあいバスが多い ・鉄道駅・バス停までの距離は500m以内の人が約53%、1kmまでで約82% 	—	
2. 日常の交通行動	①鉄道の利用状況	利用頻度	<ul style="list-style-type: none"> ・平日の毎日以上利用する人が約10%。緑苑小学校区の利用頻度が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・「平日のみほぼ毎日」以上の頻度で利用する人は前回調査（約7%）から増加 ・「週に3～4日」以上を地区別にみると、緑苑小学校区で前回調査から増加
		非利用理由	<ul style="list-style-type: none"> ・「駅までの交通手段がない」、「行きたい場所に行けない」ため、鉄道を利用していない 	<ul style="list-style-type: none"> ・非利用理由上位2位は前回調査と同じ ・「行きたい場所に行けない」、「時間がかかりすぎる」が前回調査から減少し、「行きたい時間に列車がない」が前回調査から増加
		利用目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「飲食・娯楽」、「買物」目的の鉄道利用が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回調査と同様の傾向
		目的地	<ul style="list-style-type: none"> ・市外へは名古屋市、岐阜市への移動で鉄道を利用する人が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回調査と同様の傾向
		利用駅	<ul style="list-style-type: none"> ・JR 那加駅、名鉄新鶴沼駅、JR 蘇原駅、名鉄各務原市役所前駅の利用が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回調査から利用率が低下している駅が多い中、JR 那加駅、JR 蘇原駅、JR 鶴沼駅では若干利用率が増加
		駅までの交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・駅までの交通手段は、徒歩、自動車、自転車が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回調査と同様の傾向であるが、自動車利用の内訳で送迎の割合が前回から増加
		利用時間帯	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道利用のピークは、行きは7時台・10時台、帰りは16時台 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回調査から若干前の時間帯にウェイトがシフト
	②バスの利用状況	利用頻度	<ul style="list-style-type: none"> ・7割の人がバスを利用していない 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑苑小学校区、各務・八木山小学校区では前回調査から利用者が増加
		非利用理由	<ul style="list-style-type: none"> ・「行きたい時間にバスがない」、「行きたい場所に行けない」ため、バスを利用していない 	<ul style="list-style-type: none"> ・「行きたい場所に行けない」、「時間がかかりすぎる」が前回調査から増加
		利用目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「通院・検診」「買物」「飲食・娯楽」目的のバス利用が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回調査と同様の傾向
		目的地	<ul style="list-style-type: none"> ・市外へは岐阜市、名古屋市への移動でバスを利用する人が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回調査と同様の傾向
		利用バス	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃利用するバスは、ふれあいバス・ふれあいタクシー約17%、路線バス約13% 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回調査と同様の傾向
		バス停までの交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停までの交通手段は、徒歩が大半 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回調査と同様の傾向
		乗り継ぎ先	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの乗り継ぎ先は、名鉄新鶴沼駅が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回調査と比較すると、ふれあいバスの割合が若干増加
利用時間帯	<ul style="list-style-type: none"> ・バス利用のピークは、行きは9時台（約20%）、帰りは16時（約15%） 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回調査と同様の傾向 		
③この1年間に利用した民間路線バス	<ul style="list-style-type: none"> ・民間路線バスを利用していない人が約67%。イオンモール各務原線の利用が多い 	—		
④今後利用する見込みがある民間路線バス	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も民間路線バスを利用しない人が約50%。利用路線は現況と同じ路線 	—		
3. 公共交通の満足度と重要度	①鉄道の満足度と重要度	JR 高山本線	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的満足度率は約29% ・満足度が低く、重要度が高い項目は、運行本数、自宅から駅までの利便性、駅の自動車駐車場、時刻表や乗り継ぎの情報案内 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的満足率は前回調査から増加 ・満足度が低く、重要度が高い項目は、前回調査と同様の傾向
		名鉄犬山線	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的満足度率は約52% ・満足度が低く、重要度が高い項目は、自宅から駅までの利便性、運賃 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的満足率は前回調査から増加 ・満足度が低く、重要度が高い項目は、前回調査と同様の傾向
		名鉄各務原線	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的満足度率は約52% ・満足度が低く、重要度が高い項目は、自宅から駅までの利便性、運賃。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的満足率は前回調査から増加 ・満足度が低く、重要度が高い項目は、前回調査と同様の傾向
	②路線バスの満足度と重要度	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的満足率は約27% ・満足度が低く、重要度が高い項目は、運行本数、運賃 ・運行本数、最終の時間に関する要望が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての項目で満足率が前回調査から増加 ・満足度が低く、重要度が高い項目は、前回調査から減少 	
	②ふれあいバスの満足度と重要度	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的満足率は約33% ・満足度が低く、重要度が高い項目は、「運行本数」、「行きたい方向とバスルートの整合性」、「乗り継ぎの利便性」 ・運行本数、最終の時間に関する要望が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての項目で満足率が前回調査から増加 ・満足度が低く、重要度が高い項目は、前回調査と同様の傾向 ・特に川島地区での運行本数、最終の時間に対する不満割合が大幅に増加 	
4. ふれあいバスのあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいバスに期待する役割は、交通不便者の移動手段（約93%）、路線バスのない地域の移動手段（約87%）、通院や買物などの日常の移動手段（約78%） ・ふれあいバスが果たしていない役割は、通勤・通学対応（約38%）、市外施設へのアクセス（約31%） ・達成度が低く、重要度が高い項目はなし 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいバスに期待する役割は、前回調査と同様の傾向 ・ふれあいバスが果たしていない役割も、前回調査と同様の傾向 ・すべての項目で未達成度が減少 		
5. 自由意見	<ul style="list-style-type: none"> ・運行本数の増便要望が多く寄せられた。多い意見は以下のとおり （運行ルート）東海中央病院、市中心部、駅、大規模商業施設への直通を望む意見が多い。 （運行本数・運行時刻）朝夕の運行本数の増便、運行時間帯の拡大を望む声が多い。 			

※青字部分は、前回調査（平成25年度）から満足度が向上した項目、赤字部分は低下した項目。

3. 地域における「ふれあいバス等懇談会」の開催（7～8月）

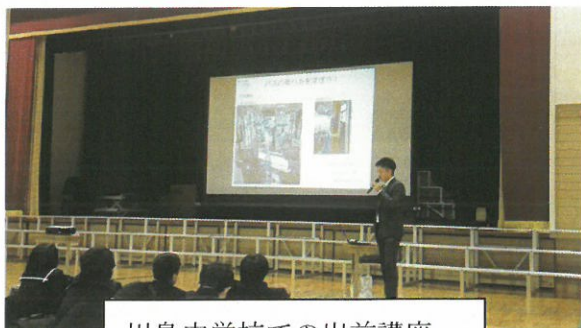
- ・市内12箇所にて計13回の懇談会を開催した。乗降調査の結果報告や利用の少ない便の今後の改正案の提案等を行い、意見交換を実施した。

4. 改正に向けた取組み

- ・次回改正に向け改正内容の調整を行い、「第18回各務原市地域公共交通会議」において協議を実施した。

5-（1）. 利用促進事業（下線事業が新規分）

- ・川島中学校での高校通学に向けた公共交通出前講座
- ・ふれあいバスぬり絵イベント
- ・ふれあいバス車内への意見箱設置
- ・ふれあいタクシー乗り方教室&お試し週間の開催
- ・「DEKAKE 隊」発足（鵜沼地区住民による）
- ・「NAVITIME」、「ジョルダン」、「駅すばあと」への情報共有、掲載
- ・「ふれあいタクシー電話お助けステーション」開設
- ・岐阜バス「土日祝日限定1日乗車券」のふれあいバスへの導入
- ・交通安全対策協議会の実施する交通安全運動との連携
- ・公共交通利用に係る積極的な情報提供
- ・運転免許証自主返納事業
- ・バスロケーションシステム
- ・スマホでかんたん！ふれあいタクシー予約サイト
- ・バスの割引運賃・企画切符（乗継券、ICカード乗車券、1日乗り放題券）
- ・低公害車、ノンステップバスの推進
- ・各種イベント時における利用促進キャンペーン
- ・各務原高校合格発表時における乗り方教室
- ・地域住民による各種活動の実施
 - バスボランティアによる乗継案内サポート
 - バスボランティアによる乗り方教室など



川島中学校での出前講座



ふれあいバス車内へのぬり絵掲載

5 - (2). 運転免許返納者支援事業

運転免許証を自主返納された方を対象に、下記の交通系ICカードのうち、いずれか1種類3,000円分を交付。

- manaca (名古屋鉄道)
- TOICA (JR東海)
- ayuca (岐阜バス・ふれあいバス)

●運転免許証自主返納者支援制度 申請者の内訳 (平成30年度)

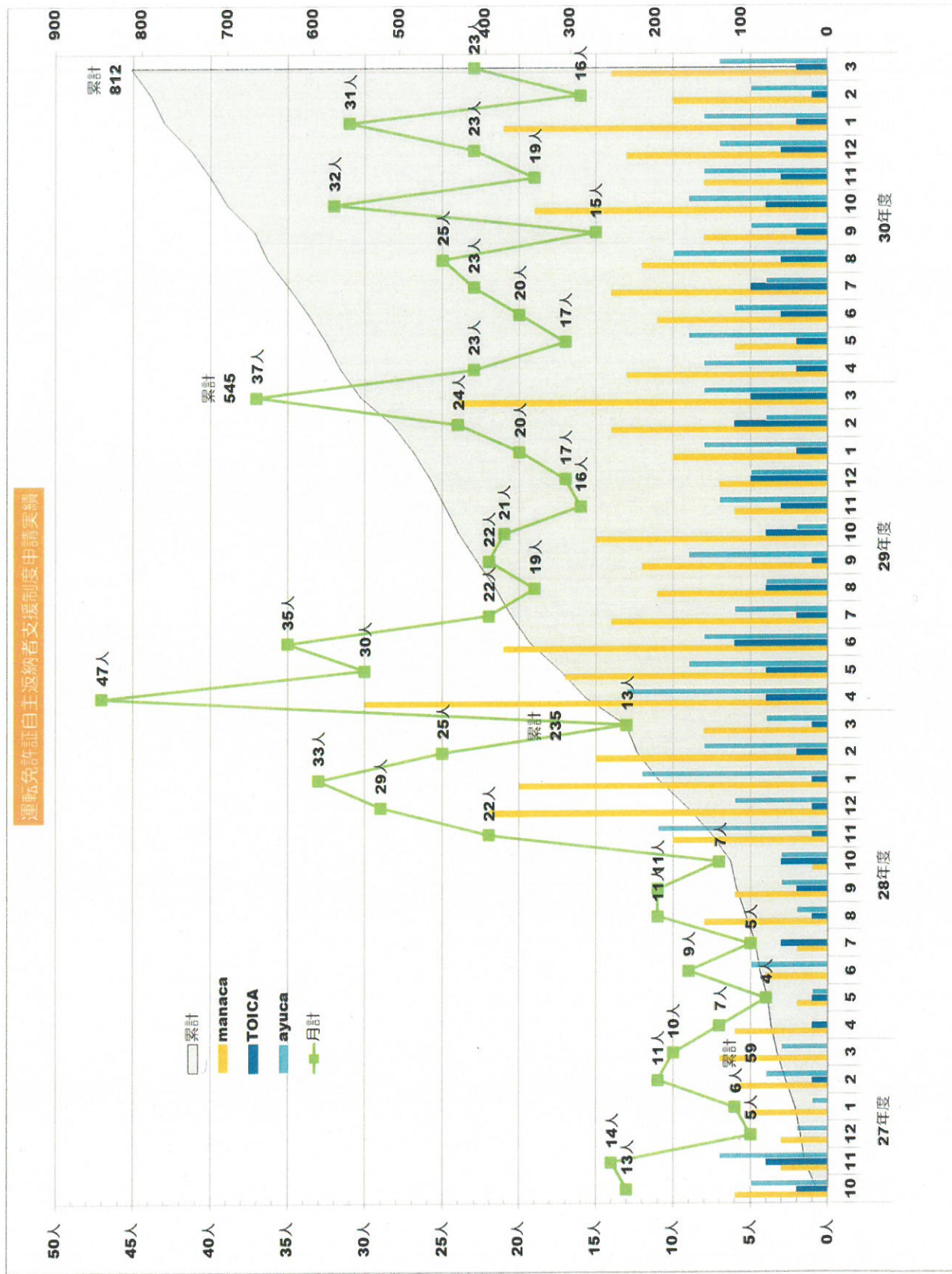
平成30年度の支援実績は、前年度比▲43件の267件

30年度		~60代	70代	80代~	計
manaca	男	4	26	58	88
	女	5	36	22	63
TOICA	男	3	4	14	21
	女	0	5	5	10
ayuca	男	1	16	45	62
	女	1	17	5	23
計		14	104	149	267

●運転免許証自主返納者支援制度 申請者の内訳 (累計)

累計		~60代	70代	80代~	計
manaca	男	12	81	155	248
	女	38	128	52	218
TOICA	男	5	17	38	60
	女	6	24	10	40
ayuca	男	3	41	108	152
	女	14	51	29	94
計		78	342	392	812

図1 運転免許証自主返納者支援制度申請実績



議事 2 各務原市地域公共交通会議 平成30年度決算報告

■収入

(単位：円)

科 目		30年度 当初予算額	補正・流用額	30年度 最終予算額	30年度 決算額	備考	
1	負担金	各務原市負担金	4,446,000	0	4,446,000	4,446,000	
2	繰越金	繰越金	333,941	0	333,941	333,941	
3	諸収入		59	50,000	50,059	50,032	預金利息：32円 岐阜県バス協会協力金：50,000円
計			4,780,000	50,000	4,830,000	4,829,973	

■支出

(単位：円)

科 目		30年度 当初予算額	補正・流用額	30年度 最終予算額	30年度 決算額	備考	
1	運営費	報償費	1,291,000	0	1,291,000	1,093,847	専門家謝金・免許返納者への報償
		会議費	30,000	0	30,000	7,931	公共交通会議お茶代等
		印刷製本費	574,900	0	574,900	499,392	バスマップ増刷等
		会場使用料	10,800	0	10,800	10,800	懇談会会場使用料
		交通費	134,300	16,130	150,430	150,390	セミナー参加、自動運転等の情報収集、第三者評価委員会傍聴に伴う交通費等
		消耗品費	30,000	7,305	37,305	37,305	利用促進事業消耗品、ふれあいバス案内看板附帯消耗品の修繕等
		備品費	3,000	17,844	20,844	20,844	公共交通会議用ICレコーダー、ぬり絵イベント用ラミネーター費
2	事業費	委託料	2,700,000	▲ 41,279	2,658,721	2,538,000	公共交通評価事業等業務委託（市民アンケート）
3	予備費		6,000	0	6,000	0	
計			4,780,000	0	4,780,000	4,358,509	

※科目間の流用は可とする。

※収入額と支出額の差額については、来年度事業へ繰越する。

収入		支出		差額（来年度へ繰り越し分）
4,829,973	-	4,358,509	=	471,464

会計監査報告

平成30年度各務原市地域公共交通会議の収支決算について会計監査をしたところ、諸帳簿・証拠書類等適正に事務処理されていることを報告いたします。

平成31年4月17日

会計監査 各務 英雄 ㊟

会計監査 西森 登 ㊟

各務原市地域公共交通会議
委員長 小鍋 泰弘 様

押印済みの原本は事務局にて保管